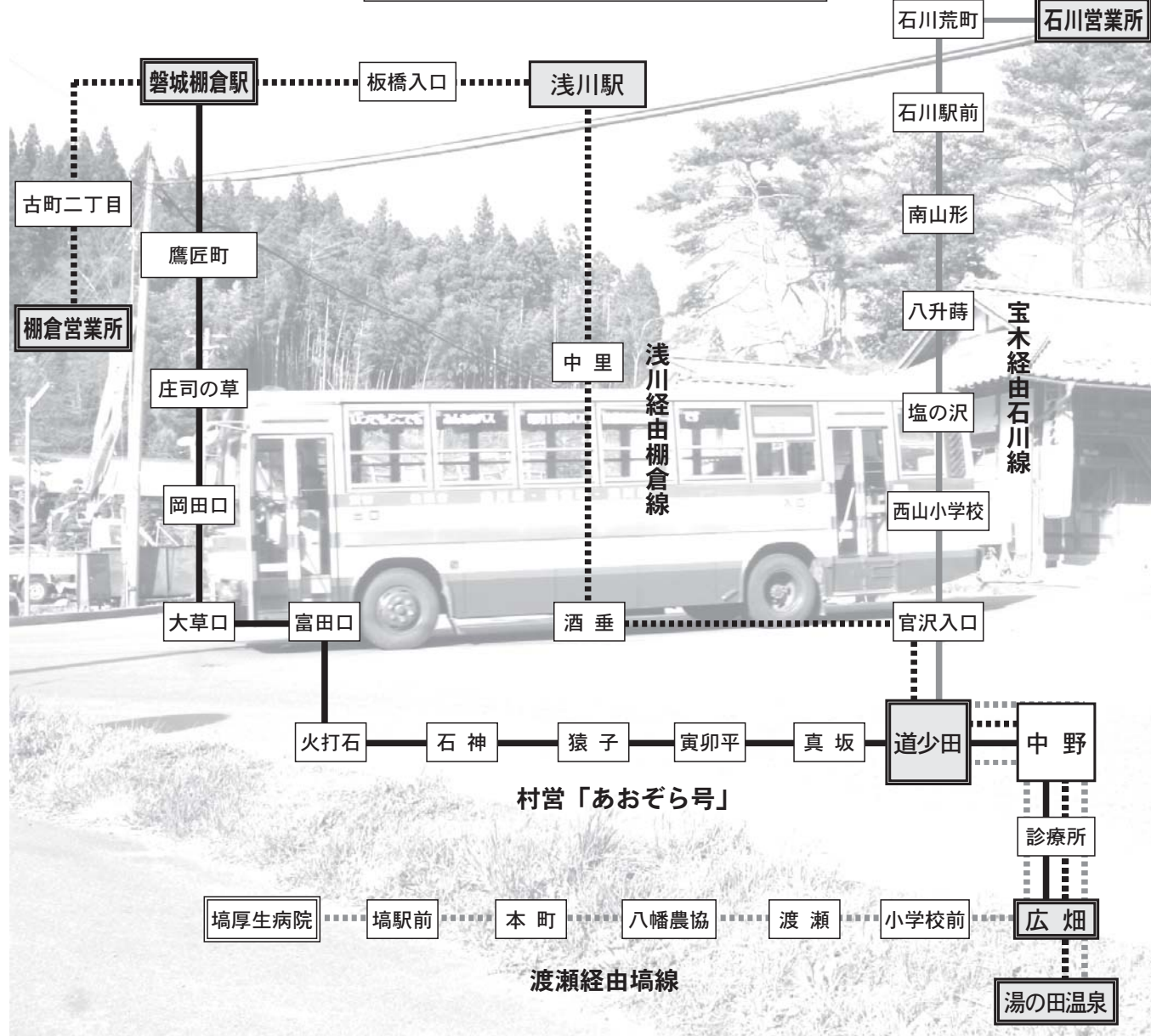


バス路線図

□ : 始点・終点 □ : 経由地



高校生などの足として活躍するあおぞら号の車内

地域の足は いま・・・

■路線バスの現状と課題

■減り続ける利用者

現在、村内を運行しているバスは、福島交通株式会社（以下「福島交通」とします）が運行する「浅川經由棚倉線」、「渡瀬經由埴線」、「宝木經由石川線」と、村が直接運営する「村営バスあおぞら号」の計四路線となっています。このうち、「浅川經由棚倉線」と「渡瀬經由埴線」は、沿線町村の委託を受けて、路線バスの代替えとして運行（代替バス）され、「宝木經由石川線」は国や村の補助を受けて路線バス（地方バス）として運行されています。

また、福島交通では、古殿町の八幡下を經由し、石川町と鮫

川村を結ぶ「八幡下經由石川線」を運行していましたが、利用者の増加が見込めず、平成十六年九月三十日で廃止されています。これらのバスは、「地域の足」として、交通手段がない学生やお年寄りなどの移動手段となり、長い間大きな役割を果たしてきました。

しかし、利用者の減少に伴い、料金収入が減り、バスの運行が困難になってきたことから、沿線町村で料金の不足分を負担し運行を維持していますが、年々その負担額が多くなっている状況です。

次に、それぞれの路線ごとの現状をお知らせします。

■浅川經由棚倉線

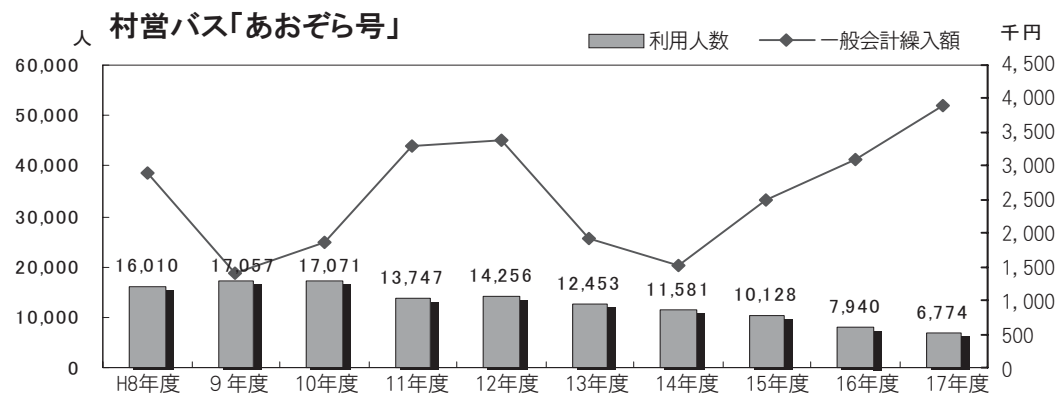
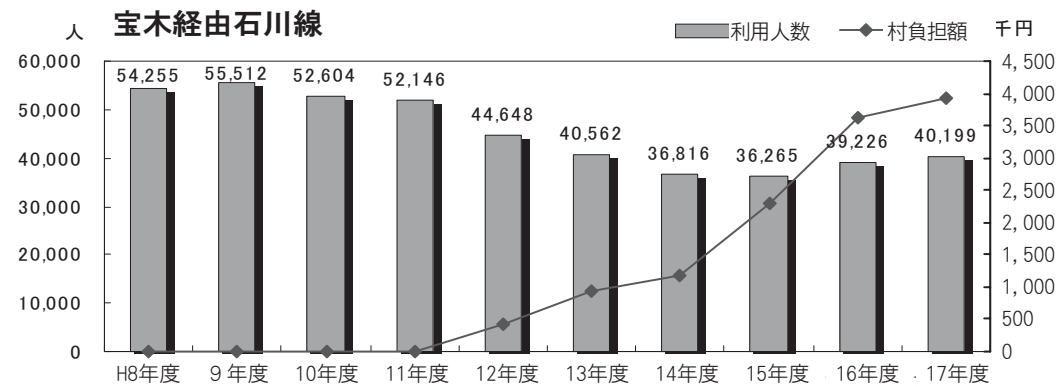
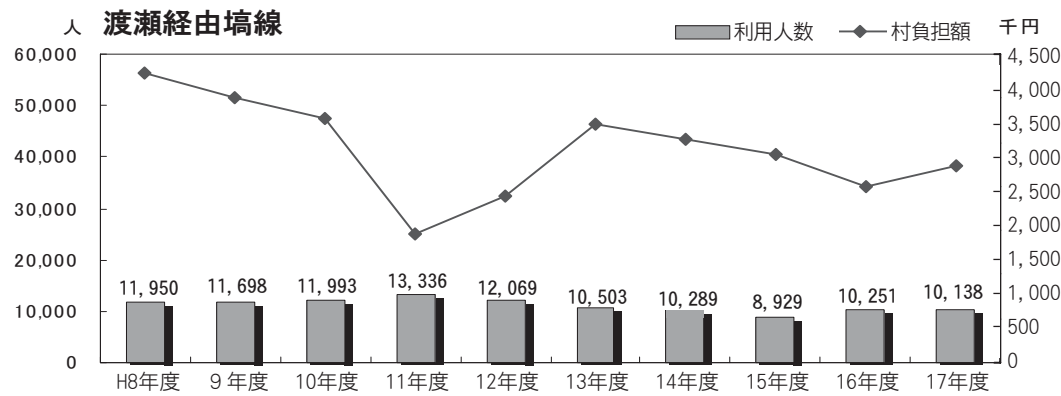
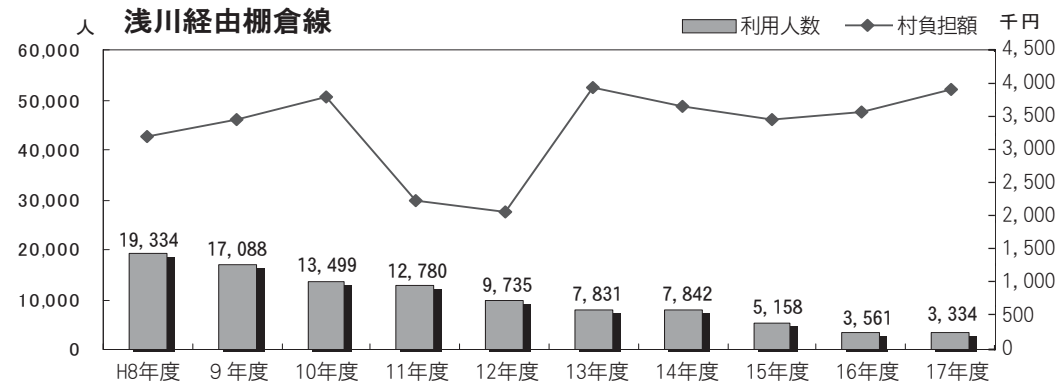
昭和六十一年十月に一度廃止路線となった「浅川經由棚倉線」は、福島交通が三町村（鮫川村・浅川町・棚倉町）の委託を受け、代替バス路線として運行されています。湯の田温泉（赤坂東野字広畑）を出発し、JR磐城浅川駅前を經由、棚倉営業所を結ぶ区間で、一日三便が往復しています。

利用者は、主に高校生やお年寄りですが、十年前（平成八年度）の一万九千三百三十四人に比べ、平成十七年度は三千三百三十四人にとどまっています（八一・七%の減）。また、村が負担する経費（県補助含む）は年々上昇し、平成十七年度は三百三十八千七百七十円を負担しています。

この路線については、昨年の六月に利用状況を調査したところ、三日間で十五人（二便あたり〇・八人）という結果になり、維持困難路線として、廃止の検討を進めているところです。

■渡瀬經由埴線

浅川經由棚倉線と同様、昭和六十一年十月に廃止路線となった「渡瀬經由埴線」も、代替バ



復しています。主に棚倉町内の高校に通う高校生などが利用していますが、平成十年度の一万七千七十一人をピークに減少し、平成十七年度は、六千七百七十四人となっ

ています(六〇・三%の減)。また、「あおぞら号」は、特別会計(村営バス会計)で運営していますが、運賃収入の不足分は一般会計(県補助含む)から繰り入れて運行しています。

「地域の足を維持するためにこれらの現状を踏まえ、村では、利用しやすい環境の整備や、効率的なバス運行を実施するため、今後もバス会社などと協議を重ねていく考えです。しかし、

それぞれの路線を維持するためには、みなさんの利用が不可欠となるため、積極的な利用をお願いします。問い合わせ 村企画調整課企画振興係 ☎4913115

スとして塙町と鮫川村が委託し、運行されています。この路線は、道少田(赤坂中野字道少田)と塙町の塙厚生病院を結ぶ路線で、一日三便が往復しています。利用状況を見ると、主に高校生や、塙厚生病院に通うお年寄りが利用していますが、平成十一年度の一万三千三百三十六人をピークに減少し、平成十七年度は一万百二十八人の利用となっています。

この路線は、湯の田温泉を出発し、福島交通石川営業所を终点とする路線で、一日四便が往復しています。利用者は、十年前(平成八年度)が五万四千二百五十五人でしたが、平成十七年度は、四万九千九百九十九人の利用(二五・九%の減)となっています。

JRバス関東株式会社が運行していた「鮫川線」の赤字路線廃止に伴い、同路線を村が引き継ぐ形で運行を開始した村営バスで、平成六年の運行開始から十一年が経過しています。「あおぞら号」は広畑とJR磐城棚倉駅を結び、一日二便が往

宝木経由石川線 西山区の宝木地区を経由し、石川町と鮫川村を結ぶ「宝木経由石川線」は、村による運賃補てん・補助および国の補助を受け路線バスとして運行され、主に石川町内の学校に通う中高校生やお年寄りが利用しています。

村営バス「あおぞら号」は、JRバス関東株式会社が運行していた「鮫川線」の赤字路線廃止に伴い、同路線を村が引き継ぐ形で運行を開始した村営バスで、平成六年の運行開始から十一年が経過しています。

村の負担は平成十二年度の四十二万八千五百八円に比べ、平成十七年度は三百九十二万四千六百六十円となっています。



朝の通学の様子



村営バス「あおぞら号」



福島交通バス